

「鳥羽の漁村・小浜」の歴史を知る

市立海の博物館 ☎ ③2 6006

小浜町は、鳥羽市の最も北に位置する海辺の集落です。令和5年現在、戸数396戸、人口753人が暮らしており、鳥羽磯部漁業協同組合の正組合員13人、准組合員29人の計42人の漁師たちがタコツボ漁、釣り漁、刺網漁、ワカメ養殖、カキ養殖などを営んでいます。

大正10年頃(いまから100年前)の『三重県漁村調査』によると、小浜の戸数は189戸、うち専業漁業141戸、兼業漁業20戸とあり、総人口1,077人のうち漁家人口が810人を占めていて、ほとんどの家が漁業で生計を立てていた「漁村」であったことが記録されています。

当時の小浜の漁業種類は「^{ぼらたて きあみ}鰻建切網漁業」(1組)、「^{ざつぎよはえなわ}雑魚延縄漁業」(15艘)、「^{ざつぎよつり}雑魚釣漁業」(15艘)、他に「^{せただあみ}瀬建網漁業」(12艘)、「^{てぐりあみ}手繰網漁業」(12艘)などで、鯛、蛸、黒鯛、鱸、鯛が多く捕れ、鮫、鰈、鯖も捕っていたことが明記されています。

小浜地区は、旧海の博物館が立地していた場所から一番近い漁村です。従って、博物館が漁村資料の収集活動を始めた昭和45年頃からは、小浜の漁家から、鰻建切網漁、鯛延縄漁、一本釣漁などに使われた数多くの漁具や漁具製作に使った資料を寄贈していただきました。



そこで、海の博物館では特別展「鳥羽の漁村・小浜 一漁師の知恵 漁具の工夫 魚介の供養」を開催し、小浜の漁家から寄贈され、文化財収蔵庫内で大切に保管している漁具やその製作道具類を中心に展示して紹介をします。これらの資料は、江戸から明治、大正、昭和の時代に天然素材を材料に手作りでつくられ、漁師たちに使われてきたものです。また展示場では、小浜の人々に伝わる漁や魚にまつわる小噺や言い伝えを紹介、古い写真なども展示します。



そして、現在も済渡院(お寺)の境内に建つ「^{いな}鯛」、「^{ぼら}鰻」、「^{このしろ}鰹」、「^{ゆむし}蛸」を供養する5つの石碑「南無阿弥陀仏鯛鰻水族碑」(2基)、「南無阿弥陀仏鰹鰻鰈水族碑」、「南無阿弥陀仏蛸虫供養塔」(2基)について、その設立の年月日、碑文の記録などを紹介することで、小浜周辺の海で現在では考えられないような「鯛の大漁があったこと」、また蛸をとるための漁師の知恵と工夫が「鯛の豊漁に繋がったこと」などをお伝えします。

漁師たちの知恵や工夫が詰まった多くの種類の漁具、大漁や豊漁の喜びと魚介を供養する漁村の暮らしなど、ひと昔前の鳥羽の漁村「小浜」を知っていただける展示ですので、ぜひご覧ください。

特別展

「鳥羽の漁村・小浜

一漁師の知恵 漁具の工夫 魚介の供養一

期間 4月22日(土)～6月25日(日)まで

ところ 市立海の博物館 特別展示室
※海の博物館の入館料でご覧いただけます。



企画展「海女がつなぐ13人のART」

抽象画や版画、イラスト、写真やコラージュ、そしてダンスなど、異なるアプローチで【海女】を表現した作品を展示します。多様なアート作品を通じて海女文化を身近に感じてみてください。



期間 4月8日(土)～6月25日(日)

ところ 市立海の博物館 ギャラリー

※海の博物館の入館料でご覧いただけます。

イベントのお知らせ

「ワカメの日」にワカメを刈り採ってみよう!

春の大潮の日に、ワカメが生えている磯に出て、刈り採る体験をします。春の磯では、さまざまな生きものにも出会うことができます。※刈り取りは漁協の許可を得て実施

とき 5月6日(土) 午前11時～午後2時

定員 15人(要予約) **参加費** 1,200円(入館料込み)

対象 小学生以上(低学年は保護者も参加してください)

持ち物 長靴、軍手、帽子、防寒具、弁当